

団体名	府中町	所属	環境課	他団体等との連携	学校等
連絡先	環境政策係 (082)286-3247				

取組事例名	キッズ環境調査プロジェクト	取組期間	平成20年度～
--------------	---------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 環境に対する取組を「大人の視点」から、「子どもの視点」へ

行政主導で発信する画一的な環境づくり施策には限界がある。今後の自然環境・生活環境の整備や環境教育の取組に活かすため、子どもの視点で環境の課題を発信し、行政及び地域が施策を講ずることを目的に、町と府中町の小学校が連携し、子どもらしい環境の視点を基本に環境調査活動を行った。

取組の背景 ～ 行政発信の環境づくりの限界

行政主導で環境の取組を考えると、画一的なものになってしまう。また、行政が発信することで取組が行政まかせになり、行政側が先導しないと継続的な取組として維持することが困難となっている。

取組のねらい ～ 子どもの視点から見た環境への気づきを発信し、大人たちへ警鐘する

家庭、地域、学校といった行動範囲を持ち、通学路の状況など地域の最も環境をよく知り敏感に感じている子どもの感性で感じたことを地域に伝えるために、町と学校が連携することで子どもたちの視点を活かす仕組みを作る。これにより地域が、環境保全意識を高め自発的に取組を推進し、併せて地域住民で取り組む地域コミュニティを推進していくことを目的とする。

取組の具体的内容 ～ 子どもの調査できる環境づくりと地域への調査結果の発信

- (1) 府中町及び府中町教育委員会（事務局及び町内各小学校からキッズ対象学年*の教諭1名）が連携し、府中町キッズ環境調査プロジェクト連絡協議会（以下「協議会」という。）を設置し、事業の概要説明、委員同士の意見交換、行政、地域、学校の取組について協議を行った。
（*キッズ環境調査プロジェクトの対象学年は、各小学校によって異なる。）
- (2) キッズ対象学年の児童による通学路観察（自然・生活環境）と環境を感じる体験を、学校で取り組んだ。各学校によって異なるが、学年、クラス、グループ、個人でテーマを決め、必要なときは、講師を呼び調査や環境学習を行った。また、林間学校等で自然体験を取り入れた。
- (3) 年度初めの取組の前に、キッズ対象児童に対し環境に関するアンケートを行った。
府中町の山、川、公園、生き物、ごみ、地球温暖化などを選択肢式でアンケートをとった。
※アンケートは学校の取組のためのものでないため、結果に基づく取組は行わない。
- (4) 協議会は、アンケート結果及び、各学校が取組を模造紙2～4枚にまとめたものを町内の公共施設で掲示して住民、地域及び関係団体に報告した。学校でも参観日、掲示、学習発表会等で取組を随時発信した。



(連絡協議会の様子)



(みくまり峡での水生生物調査の様子)



(報告展示の様子)

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 子どもたちの視点を地域に発信するために

- (1) 子どもたちの環境への思いは大人によって作られる傾向がある。子どもの視点を大切にするにはどうしたらよいか。
- (2) 学校の消耗品の予算は、施設修繕や教材の補充等だけで使いきるため、調査等に係る費用の捻出が困難。
- (3) 学校区を超えた取組の発信をどのようにするか。学校の負担にならない発信方法はどうか。

創意工夫した点 ～ 子どもたちの環境の視pointsの発掘と、小学校への環境教育予算の支援

- (1) 環境に関する先入観がない状態でのアンケート実施により、環境の変化を調査
子どもたちの視点を引き出すため、環境学習にまだ取り組んでいない年度当初にアンケートを行っている。平成22年度から内容を大きく変えず、経年変化をみることにしている。
- (2) 環境教育予算の支援
調査に使用する消耗品を行政側が負担することにより、予算不足でできなかった調査を行えるようにした。
- (3) 子どもたちの調査結果を地域に発信
協議会を設置することで、教諭と行政のつながりが生まれ、環境教育を学校教育の中で修めるのではなく、広報や取組内容を公共施設に掲示し地域に発信し、大人たちにも、環境について考えてもらう機会を作った。環境教育を共有することによって地域との橋渡しができるようになった。

取組の成果（効果） ～ 子どもの環境調査発信による、地域活動の実現

子どもたちの発信した報告を受け、地域の環境団体が課題を解消するため次の活動を行った。

- (1) 榎川の清掃活動
- (2) 向洋駅周辺のごみのポイ捨て防止活動



(報告を受け始まった榎川の清掃活動)



(向洋駅周辺のごみのポイ捨て防止活動)

今後の展開 ～ 連携の強化と、調査結果の計画反映

町と学校との連携の強化、町・地域・子どもたちの一体となった取組を深め、町全体での環境づくりを進めていく。

キッズ環境調査プロジェクト対象学年として、調査・体験活動・発表等を行ったという自覚を子どもたちに促すため、町から子どもたちに、活動認定書（案）を授与する等、活動への意識向上を図る。

平成27年度に改定予定の府中町環境基本計画に、アンケートの結果や学校の取組結果を検討し計画策定し、取組を実施する。

他団体へのアドバイス ～ 子どもたちの体験を広げるための連携

子どもたちの視点を引き出すためには、体験が不可欠なため、行政や地域が連携して情報交換し、体験できる環境を整えることが必要。

行政が学校に対して支援できること、学校が行政の事業に参加できることなど協議会での意見交換で知れた情報等もあったため協議の場をより多く設けたら向上できるのではないかと考える。